

2022年度(令和4年度)

## 夏休みにおすすめする本

選定 北海道学校図書館協会

選定協力 札幌市学校図書館協議会

	表紙画像	書名 著者名他 ISBNコード	出版社 出版年(月) 税込価格	※選定コメント もしくは出版社による紹介など
<b>幼児</b>				
1		<b>ぼうやはどこ？</b> アン・ハンター/作 橋本 あゆみ/訳 978-4-7598-2256-4	化学同人 2022.5 2,090円	こぎつねぼうやがいなくなった。「ぼうやはどこ？」おとほけパパと、こぎつねぼうやののきな楽しいかくれんぼ。 パパがあちこち中をのぞいても、上を見上げても、向こうに目をこらしても…ぼうやはどこにも見当たりません。さあ、困った。みんなは見つけれられるかな？
2		<b>くうちゃん いってらっしゃい</b> まえがわ かえで/作・絵 978-4-8344-0284-1	白順社 2021.12 1,100円	朝の身支度をするくうちゃん。 挨拶をして、トイレに行つて、義足にお着替えて。
3		<b>おおきなかせのよる</b> 阿部 結/著 978-4-591-17149-3	ポプラ社 2021.11 1,760円	大きな風が吹いてきて、風と一緒に夜の世界へ飛び出した。森の中で、風と一緒にかくれんぼ。風と友だちになりました。 風と遊ぶ男の子の一夜の、夢と現実が入り混じるお話を圧倒的なイラストで描く。
4		<b>オカピぼうやの ちいさなぼうけん</b> 岸本 真理子/作 長谷川 義史/絵 978-4-86549-257-6	ひさかた チャイルド 2021.12 1,650円	アフリカの森の奥深く、茂みで暮らすオカピぼうや。お母さんを探しに、オカピぼうやは、大きな一歩を踏み出す。自分を知る成長物語。 ある日、オカピのぼうやが目を覚ますと、お母さんがいません。ぼうやは、お母さんを探しに出かけることにしました。森の茂みを抜け出すのは初めて。やがて、心細くなるぼうや。さあ、お母さんは見つかるでしょうか……。
5		<b>いつまでも</b> アンナ・ピンヤタロ/作 俵 万智/訳 978-4-07-451783-1	主婦の友社 2022.6 1,540円	「お母さん、いつまでぼくのお母さんでいてくれる？」こぐまのオリの問いかけに、お母さんぐまは優しく答える。読んでいる大人も、優しくゆったりする絵本。森の中でこぐまのオリがお母さんにたずねます。「お母さんはいつまでぼくのお母さんなの？」「いつまでもよ」とお母さんは答えます。でもオリには「いつまでも」がどんな感じなのか分からなくて一親子でいることの幸せをかみしめられる幸福な絵本。
<b>小学校・低学年</b>				
1		<b>アリのメアリ</b> いわた まいこ/作 978-4-7764-1053-9	BL出版 2022.5 1,650円	「たいへん！」アミメアリのメアリは、うっかり居眠りをして姉さんたちとはぐれてしまいました。身近な場所で見つけることができる小さな生き物たちを繊細な切り絵で描いた絵本。
2		<b>ジェニーのぼうし</b> エズラ・ジャック・キーツ/作 石津 ちひろ/訳 978-4-7690-2264-0	好学社 2022.5 1,760円	楽しみに待っていた帽子が届いてみたら、とてもシンプルでがっかりしてしまう。仕方がなく、かぶって出かけて行くと……。かわいいものが大好きな気持ちがあふれる絵本。
3		<b>ねこのこね</b> 石津 ちひろ/詩 おくはら ゆめ/絵 978-4-7520-1008-1	アリス館 2022.5 1,430円	春夏秋冬の詩がとても楽しい絵本。 石津ちひろのわくわくするたのしい詩。 折り句や回文にわくわくし、おくはらゆめの描く猫がなんともかわいい。
4		<b>2ひきのカエル そのぼうきれどうすんだ？</b> クリス・ウォーメル/作・絵 はた こうしろう/訳 978-4-19-865469-6	徳間書店 2022.5 1,980円	森の大きな池のスイレンの葉の上に2匹のカエル。棒切れを抱える1匹につっこもう1匹。「なんでそんなぼうきれをかかえてるのさ？」「犬がきたら、このぼうでバンバン！って、やっちまうのさ」でも、池に犬がきたことはない。「いまはいないかもしれねえよ。でももし、やってきたら？」備えあれば、憂いなし！リアルなイラストとカエルたちのかけあいのギャップに思わずふきだす、ゆかいな絵本。2匹のウィットに富んだかけあいがとても楽しい。




5		<b>へんしん</b> <b>すがたをかえるイモムシ</b> 桃山 鈴子/作 井上 大成/解説・監修 978-4-8340-8653-9	福音館書店 2022.4 1,540円	姿を変えて成長していくイモムシの変身を美しい絵と科学に基づく文で表現されている。昆虫画家・桃山鈴子が描く身近な虫のダイナミックな「へんしん」。たまごから生まれたイモムシは皮をぬいで、さなぎになって、それから…。生命の不思議に感動する1冊。
6		<b>おとうとが おおきくになったら</b> ソフィー・ラグーナ/文 ジュディ・ワトソン/絵 当麻 ゆか/訳 978-4-19-865451-1	徳間書店 2022.4 1,760円	「大きくなったら、二人で色々な所へ行こう。弟ができた男の子の夢がたくさんあった絵本。」(帯より)挿絵もすばらしい。弟のテオは、毎日ミルクを飲んで、眠っている。ママがいうには、テオがもっと大きくなったら、いっしょに遊んでもいいんだって。テオが大きくなったら、いっしょにジャングルのなかを自転車ではしるんだ。木の枝には、ハビがいっぱい。つたの垂れている木の下には、ぼくたちのひみつち。テオが大きくなったら…。男の子が小さな弟との未来を夢見る、楽しい絵本。
7		<b>はっぴーなっつ</b> 荒井 良二/作 978-4-89309-704-0	ブロンズ新社 2022.3 1,540円	新しい季節は、いつだって祝福でいっぱい！季節の中で美しさをたっぷり味わって欲しい荒井良二の命の賛歌。幸福の「ハッピー」と、荒井良二さんが子どものころから影響を受けてきたスヌーピーのコミック「ピーナッツ」で『はっぴーなっつ』。「ピーナッツ」への敬意を込めたオマージュ作品でもある本書は、季節がめぐりゆくことへの喜びに満ちた、生命力あふれる絵本です。
8		<b>わたしの かぞく みんな のかぞく</b> サラ・オレアリー/作 チン・レン/絵 おおつか のりこ/訳 978-4-251-09952-5	あかね書房 2022.3 1,760円	「人と違うことを怖がる子の重荷を少しでも取り除くことができれば嬉しい」(カラ・オレアリー)。家族は色々。それぞれの幸せがある。「自分の家族のとおきのお話をみんなに聞かせてね」先生の言葉に「私の家族は他と違うから」と黙ってしまった私。ところがクラスメイトの話を聞いていたらみんなの家族も違っていて…子どもたちのユーモラスで温かい家族のおはなし。
9		<b>めねぎのうえんの ガ・ガ・ガン！</b> 多屋 光孫/文・絵 978-4-7726-1480-1	合同出版 2021.12 1,980円	めねぎのうえんの社長が、障害をもつ人と共に働いてみるとガンと驚くことばかり。自分の思い込みを変えるようないくつものガンが、みんなを幸せにした実話からできたお話。障害とは何かを身近に考える絵本。障害のある人もない人も、多様な存在をおたがいに認め合える社会へ。
10		<b>アリのかぞく</b> 島田 拓/文 大島 加奈子/絵 978-4-8340-8655-3	福音館書店 2022.4 990円	普段見る事のできないアリの巣の中や引っ越しの様子をわかり易い説明とイラストで伝えている科学絵本。 「かがくのとも」絵本
<b>小学校・中学年</b>				
1		<b>くまの ピエール</b> イブ・スバング・オルセン/作 菱木 晃子/訳 978-4-7721-9078-7	こぐま社 2022.3 1,540円	ピエールは、ステイーヌの家で暮らす小さなくまのぬいぐるみ。初めて見た月を、お金だと思って取りに行こうとしたり、雪玉のなかに閉じこめられて、ころころ転がったり…。勘違いから、いつもおかしなハプニングを巻き起こすピエール。これは、そんなおとほけ屋のくまの、ゆかいな日々のお話。
2		<b>まるごと たまねぎ</b> <b>ねぎのことも よくわかる！</b> 八田 尚子/構成・文 野村 まり子/構成・文 978-4-86484-182-5	絵本塾出版 2021.12 1,760円	世界中で栽培されている野菜「たまねぎ」について、なぜ丸いのかや育て方、歴史などが詳しく学べる絵本。たまねぎのイラストが魅力的である。 「絵図解 やさい応援団」シリーズ 12 冊目
3		<b>ちいさな虫のおくりもの</b> <b>アリスの心とフェアブルの目</b> 谷本 雄治/文・写真 978-4-580-82497-3	文研出版 2021.12 1,540円	虫たちを見ていると、自然やいのち、環境について考えるきっかけをくれる。『不思議の国のアリス』のアリスのように好奇心をもち、『昆虫記』のフェアブルのようにじっくり観察する目で、虫の世界をみてみよう。わざわざ遠くに出かけなくたって、足元や身のまわりにはいろんな虫がくらしている。「なんだらう？」と不思議に思う気持ちと、「そうだったのか！」と感動する心を持てば、毎日がドキドキわくわくの連続だ。自由研究のヒントもいっぱい。つまった自然観察ノンフィクション。楽しく読んで、虫の世界をのぞいてみよう！
4		<b>りりかさんの ぬいぐるみ診療所</b> <b>空色のルリエル</b> かの ゆうこ/作 北見 葉胡/絵 978-4-06-524927-7	講談社 2021.11 1,540円	小さい頃からぬいぐるみを愛するりりかさん、大人になり洋裁を学んでぬいぐるみの診療所を開院！りりかさんが開いている「ぬいぐるみ診療所」には患者さんが次から次へとやってくる。生き生きとぬいぐるみを蘇らせてしまうりりかさんには、ある秘密が…。 『りりかさんのぬいぐるみ診療所 わたしのねこちゃん』2022.4刊

5		<b>すいめん</b> 高久 至/写真・文 978-4-7520-0981-8	アリス館 2021.7 1,540円	水面は空と海をつなぐ不思議なところ。次々と表情を変える水面とそこにくらす海の生きものたちの物語。
6		<b>きみは ぼうさいたいし</b> にかい としひろ/原作 すずき みゆき/文 かなざわ まゆこ/絵 978-4-323-02475-2	金の星社 2021.5 1,430円	待ちに待った川へのキャンプ。ところが、降り出した雨はあつというまにどしゃぶりになり、電気も使えなくなりました。真っ暗な中、いつも、災害に備えて避難訓練に参加しているお母さんの声が聞こえてきます。ユウタ、暗い時はどうするの？防災・減災を考える絵本。
7		<b>こども倫理学</b> 善悪について 自分で考えられるようになる本 佐藤 岳詩/監修 パウンド/著 978-4-86255-630-1	カンゼン 2022.4 1,430円	「善い」とか「悪い」とってどういうことなんだろう？より善い世界にするために一人ひとりが考えるべきこと。「迷うかも!? あなたならどうする？」本当によいこととは何かを考えることができる倫理の本。 小学校高学年を対象に、高度な理屈を必要としない「倫理学の基本」をわかりやすく解説。答えが算数の計算式のようにはっきりしない倫理的問題を考える行為は、ものごとの善し悪しについて、自分で考えて向き合う力を育みます。
8		<b>お祭りが大好き パヤベくん</b> パプアニューギニア 長倉 洋海/著 978-4-7520-1007-4	アリス館 2022.4 1,540円	パプアニューギニアのたくさんの部族が集まるお祭りを 3 歳のパヤベくんを主人公に撮影。お祭りのとき顔を染料で塗ることや、動物の毛や鳥の羽の衣装など、異文化を学べる 1 冊。 今日はたくさんの部族が集まる、お祭り！どんな衣装やおどりが、見られるかな？
9		<b>病院図書館の青と空</b> 令文 ヒロ子/著 978-4-06-527417-0	講談社 2022.4 1,540円	読書好きの小 5 の空花(そらは)は、転校した学校になじめないうちに病気になる入院してしまう。病院の図書館で本のさし絵から出てきた女の子に手をひかれ物語の中へ…。
10		<b>すずばあちゃんのおくりもの</b> 最上 一平/文 黒井 健/絵 978-4-406-06678-5	新日本出版社 2022.4 1,650円	春になると、小さな畑にでて、自分一人分の野菜を育てるすずばあちゃん。ばあちゃんは、畑仕事がおわると、道ばたに、空き地に、花の種を植えてつづけている。90歳をとうにすぎ、一人暮らしのすずばあちゃん。純平には、ばあちゃんが、花と話をしているように思えた。花には、すずばあちゃんの戦争の時代のつらい思い出が。 平和と命について考えさせられる。
<b>小学校・高学年</b>				
1		<b>那木野、伝説の森で</b> 西村 さとみ/作 佐竹 美保/絵 978-4-337-33650-6	国土社 2021.11 1,540円	神主だったおじいちゃんが亡くなって、おばあちゃんが一人で守っている那木野神社と那木野の森。神社のご神体とこの森には「大蛇の伝説」という悲しい言い伝えがあった。夏休みにやってきた優は、森で出会った不思議な少年ミチルと白い子犬のイツキとともに、森を脅かすものに立ち向かうことに…。
2		<b>かすみ川の人魚</b> 長谷川 まりる/作 吉田 尚令/絵 978-4-06-525758-6	講談社 2021.11 1,540円	人とのコミュニケーションを望まない大賀は、友達と遊ぶのがいやで学校をちょっとの間抜け出す。向かった先のかすみ川でなんと人魚を見つけてしまう。唯一の友達の千秋と人魚を育てることにするのだが…。秘密を取る？友達を取る？ちょっとコワイけど気になる少年たちの物語。
3		<b>ビワ色のドッジボール</b> もり なつこ/作 丹治 陽子/絵 978-4-580-82498-0	文研出版 2021.11 1,540円	ドッジボールに命をかけている翼。あまりにも周りが見えなくなりすぎて、気がつけば学校に居場所がなくなってしまった。学校にも行けなくなり、おばあちゃんの住む町へ一人で行き、人との出会いで自分を見つめ直していく。 きっかけはたいしたことじゃなかったはずなのに、学校に行こうと思ったら胸の中に嫌な感じが広がってきたんだ。いじめられてなんかない。だけど学校に居場所がない。まいちゃんなら、この気持ちをわかってくれるかな？
4		<b>馬と明日へ</b> 杉本 りえ/作 結布/絵 978-4-591-17183-7	ポプラ社 2021.12 1,650円	小 6 の悠斗(はると)は、マリモという馬にのって、障がい飛越の競技会に出る練習をしている。乗馬クラブ「しいの木ファーム」に集うなかまたちの、さわやかで心あたたまる友情の物語(帯より)。

5		<b>飛べないハトを見つけた日から</b> クリス・ダレーシー/作 東郷 なりさ/絵 相良 倫子/訳 978-4-19-865384-2	徳間書店 2021.11 1,760円	12歳のダリルは公園で、つばさが折れて飛べないハトを見つけた。リングをつけたレースバトだ。飛べないハトに価値はないといわれたダリルは、自分が飼おうと決意する。 ひとつのきっかけで、夢中になれるものを見つけ、成長する少年の姿を生々しくと描く感動作。
6		<b>プーさんの戦争</b> 世界一有名なクマのお話 リンジー・マティック/文 ジョシュ・グリーンハット/文 ソフィー・ブラッコール/絵 山口 文生/訳 978-4-566-01458-9	評論社 2021.12 1,980円	世界中で愛されるクマのプーさん。プーさんは、本当にいたクマでした！カナダの獣医師ハリーが、戦地に向かう途中で見つけた一匹の子クマ。カナダ軍のマスコットとなり、大西洋を渡って、イギリスへ……。そこで、クリストファー・ロビンに出会います。この本は、ハリーのひまごにあたる作者、リンジー・マティックが、事実をもとに作りあげた物語。 巻末には貴重な写真や資料がおさめられている。
7		<b>牧野富太郎</b> 植物の神様といわれた男 横山 充男/著 ウチダ ヒロコ/絵 978-4-7743-3200-0	くもん出版 2022.1 1,650円	四十万点もの植物標本を集め、千五百以上もの植物に名前をつけた牧野富太郎。植物に一生をかけて向かい合い、植物分類学を発展させただけでなく、まるで「雑草」のように一生懸命生きている人びとを勇気づけ、励まし続けた人物を描きます。九十四歳で亡くなるまでのヒストリー。
8		<b>ニッキーとヴィエラ</b> ホロコートの静かな英雄と救われた少女 ピーター・シス/作 福本 友美子/訳 978-4-7764-1042-3	BL出版 2022.3 2,420円	ニッキーは、銀行で働いていたイギリスの男性。ナチスから子どもたちだけでも助けたいと、669人をチェコスロバキアからイギリスへ逃がした。ヴィエラは、チェコスロバキアにすむユダヤ人の女の子。両親といっしょに幸せに暮らしていたが、ホロコートの危機からイギリスへと助けられた。自分がしたことを誰にも言わなかった静かな英雄ニッキーと自分が誰に助けられたのか知らなかったヴィエラ。2つの物語が、同時に始まります。作者のあとがきも必読。
9		<b>ももちゃんのピアノ</b> 沖縄戦・ひめゆり学徒の物語 柴田 昌平/文 阿部 結/絵 978-4-591-17356-5	ポプラ社 2022.5 1,650円	本物のピアノがひけると聞いて、ひめゆり学園に入学したももちゃん。しかし、戦争がはげしくなり、ピアノや音楽とはかけ離れた日々が続く、それでも「生きること」をあきらめなかった1人の女の子の物語。 1945年沖縄一当たり前の日常が、当たり前でなくなったとき、少女の命をつないだのは、ピアノの音色だった。音楽を生きる力にして戦禍を生きた女性のノンフィクション。
10		<b>なきむしせいとく</b> 沖縄戦にまきこまれた少年の物語 たじま ゆきひこ/作 978-4-494-01248-0	童心社 2022.4 1,760円	平和を願い、沖縄を見つめ続けてきた田島征彦が描く沖縄戦—ここは1945年の沖縄。戦争がはげしくなり母と妹の3人で南に逃げるようになったせいとくは、戦火にまきこまれていく。平和を願い、沖縄を見つめ続けてきた作者が贈る沖縄戦を描いた絵本。

2022年度(令和4年度)				
夏休みにおすすめする本				
選定 北海道学校図書館協会				
選定協力 札幌市学校図書館協議会				
表紙画像	書名 著者名他 ISBNコード	出版社 出版年(月) 本体価格	※選定コメント もしくは出版社による紹介など	
<b>中学校</b>				
1		<b>マイブラザー</b> 草野 たき/著 978-4-591-17146-2	ポプラ社 2021.11 1,650円	家族の事情をきっかけに、志していたエリート中学の受験を諦めた中学2年生・海斗は、5歳児の弟・総也の面倒をみる毎日過ごしている。未来への希望をもたず、心を開く友人もおらず、ひたすらイクメンライフに没頭し毎日を消化していた海斗だったが、あるとき保育園時代の幼馴染5人と嫌々ながら同窓会をすることに。総也をタテに、平穏な日々を守ろうとする海斗だったが……。5歳児に振り回され、かき乱されるなかで、向き合わざるをえなくなる14歳たちの今は、滑稽でちょっと残念だけれども愛おしい。笑って泣ける成長小説！
2		<b>マスクと黒板</b> 濱野 京子/作 978-4-06-527336-4	講談社 2022.4 1,540円	コロナで休校していた中学校が再開した。そんな中学2年生たちの日々を描く。 休校明けの生徒たちを待っていたのは、「コロナに負けるな！」のメッセージと見事な黒板アート。こんなすごい絵、誰が描いたのか？

3		<b>エレキテルの謎を解け</b> 電気を発見した技術者 平賀源内 鳴海 風/著 高山 ケンタ/画 978-4-265-84024-3	岩崎書店 2021.11 1,760円	少年時代から天狗小僧と呼ばれ、何でも自分で工夫して、初めて見る物でも、どうやって作られているかを見抜くことができた平賀源内。ところが、二十五の歳に長崎で出会ったオランダ人の操る(しびれる箱)の仕組みだけは、どうしても解明できませんでした。しかし、紆余曲折、試行錯誤の末に源内はその謎を解き明かします。「エレキテル」の復元に成功した平賀源内の姿を描いた作品。国益のために奔走し、非常の人とも呼ばれた江戸の才人平賀源内の熱情と格闘の人生を描く歴史小説。
4		<b>ジュニア版 キリン解剖記</b> キリンの首が教えてくれたこと 郡司 芽久/著 978-4-8163-7113-4	ナツメ社 2022.1 1,540円	キリンの研究を行う著者は、キリンの解剖を行い「首」の骨について調べていく。既刊のものに、ビジュアルページや対談ページ、用語解説などを加える。子どもだちに伝えたい、研究のおもしろさとは？2019年発行の『キリン解剖記』を小学生でも楽しめるように、漢字にふりがなをふって、難しい言葉に解説を加えたジュニア版。
5		<b>屋根に上る</b> かみや としこ/作 かわい ちひろ/絵 978-4-05-205488-4	学研プラス 2021.12 1,540円	有名私立中1年の皓(こう)の家に、亡くなった祖父に仕込まれたという大工の村田さんが来た。祖父が作ったはしごを直してくれたことが縁で、小学校で同級生だった一樹(いっき)と再会する。人との関係や人生を見つめなおす。
6		<b>スネークダンス</b> 佐藤 まどか/作 978-4-09-289316-0	小学館 2022.3 1,540円	ローマで生まれ育った主人は父の死後、母と共に日本で暮らすことに。古い町並みをスケッチするのが好きな主人の目の前に、スプレー缶で落書きする風変わりな少女が……。芸術と出会う喜びと挑戦を描く青春小説。
7		<b>これから大人になる君たちへ</b> 学校では教えてくれない 未来を生き抜くヒント 池上 彰/監修 978-4-04-605534-7	KADOKAWA 2022.3 1,650円	「お金」「働く」「幸せ」…など 未来に向けて知っておきたい勉強よりも大切な世の中の仕組みとルール。 18歳成人時代へ——大人になるまでに考えたい世の中のルール、教えます！法律改正で成人年齢が18歳に引き下げられる。だから君は、今までより2年も早く“大人への準備”をしなければならない。この本は、これから大人になっていく君に考えてほしい「世の中の大切なこと」満載の一冊！
8		<b>「オードリー・タン」の誕生</b> だれも取り残さない台湾の天才IT相 石崎 洋司/著 978-4-06-527593-1	講談社 2022.4 1,650円	新型コロナウイルスが流行しはじめた時、マスクが手に入らなかったが、台湾では「オードリー・タン」のおかげでパニックにならなかった。 教室ではなぜみんなが同じことを学ばないといけないのだろう？ 世界に絶望したギフテッドが＜新しい民主主義＞の旗手となる物語。 生まれつきの心臓病、飛びぬけた知能を持つギフテッド、不登校、十代での起業、トランスジェンダー、ITの天才にして、“新しい民主主義”の旗手、オードリー・タンの伝記物語。
9		<b>この空のずっとずっと向こう</b> 鳴海 風/作 おとない ちあき/絵 978-4-591-17220-9	ポプラ社 2022.1 1,650円	主人公のそらは、幕末の江戸に住む町医者の娘。英語を学ぶ侍の子どもの大六と知りあい外国で学ぶことを夢見ていく。 1871年(明治4)11月12日、横浜港からアメリカに向けて出港した100人を超える使節団。使節団には、日本初の5人の女子留学生が同行しました。永井繁子、津田梅子、山川捨松、上田梯子、そして、吉益亮子。のちの日本の女性教育、社会進出に大きな役割を果たした彼女たちは、いったいどんな少女だったのでしょうか？本書は、吉益亮子を主人公のモデルに、外国で学ぶ夢を実現させたひとりの少女の姿を描く物語。
10		<b>ぼくたちのスープ運動</b> 小さな思いやりが世界を変える ベン・ディヴィス/作 渋谷 弘子/訳 978-4-566-02473-1	評論社 2022.2 1,760円	病気が寛解したと言われ、新しい学校で新しい生活を始めたジョーダン。ママが持たせてくれたスープをホームレスの人にあげたことから世界が動いていく。…それがいつしか、大切な人とかわした約束を守ることにつながっていく。
<b>高等学校</b>				
1		<b>同志少女よ、敵を撃て</b> 逢坂 冬馬/著 978-4-15-210064-1	早川書房 2021.11 2,090円	第二次世界大戦の独ソ戦で母を殺された少女は、女性だけの狙撃小隊に入る。善悪では語れない戦場で生きる彼女たちの圧倒的物語。 1942年、独ソ戦のさなか、モスクワ近郊の村に住む狩りの名手セラフィマの暮らしは、ドイツ軍の襲撃により突如奪われる。母を殺され、復讐を誓った彼女は、女性狙撃小隊の一員となりスターリングラードの前線へ――。
2		<b>ソ連兵へ差し出された娘たち</b> 平井 美帆/著 978-4-08-789015-0	集英社 2022.1 1,980円	1945年8月9日、ソ連の対日参戦により「満州国」は崩壊した。日本への引き揚げは筆舌に尽くし難い過酷なものであった。その中で、日本人の安全のため、ソ連兵へ「接待」の名目で差し出された性暴力の実態に迫るノンフィクション。

3		<p><b>怪虫ざんまい</b> 昆虫学者は今日も挙動不審</p> <p>小松 貴/著 978-4-10-351792-4</p>	<p>新潮社 2022.4 1,650円</p>	<p>身近な自然の中で、次々と驚くべき発見をする昆虫学者の行動は実に挙動不審である！珍獣発見から、現代の環境問題への洞察まで、昆虫学者の奮闘の日々。あなたの足元の超極小、超マニアックミラクルワールドに、コマツ博士がご案内。</p> <p>1 「怪虫」はそこにいる 2 昆虫学者が閉じ込められた！ 3 公園の大惨劇</p> <p>4 思い出の「怪虫」たち 5 地下空間のアイドル 6 光りかがやく「怪虫」を求めて</p>
4		<p><b>狩りと漂泊</b> 裸の大地 第一部</p> <p>角幡 唯介/著 978-4-08-781714-0</p>	<p>集英社 2022.3 1,980円</p>	<p>『極夜行』の著者が挑む新しい旅。一人と一匹の旅は狩りをしながらの北極狩猟漂泊行。人間の原始とも言える旅は、土地とともに生きる旅人であった。『極夜行』後再び旅する一人と一匹にいったい何が起きたか。この旅で、私は本当に変わってしまった。覚醒し、物の見方が一変し、私の人格は焼き焦がれるように変状した。人間性の始原に迫る新シリーズ第一作！</p>
5		<p><b>ミッドナイト・ライブラリー</b></p> <p>マット・ハイグ/著 浅倉 卓弥/訳 978-4-596-31906-7</p>	<p>ハーパーコリンズ・ジャパン 2022.2 1,980円</p>	<p>ノーラはその日人生のどん底にいた。飼っていた猫を亡くし、仕事をクビになり、いくら悲しくても話を聞いてくれる家族も友人もない。頭をめぐるのは後悔ばかり。生きている意味などもうないと、ノーラは衝動的に自らの命を絶とうとする。だが目覚めたとき、目の前には不思議な図書館が佇んでいた。そこには、ノーラが選ばなかった人生が、本となり開かれるのを待っていた！</p>